

# 市民の生命と健康を守る 取り組みについて

小林 信議員

突然死防止に心電図検査を  
**質問** 部活動練習中に中学2年生の生徒が倒れ、突然死で亡くなりました。心からご冥福をお祈りします。突然死は、元気に楽しく過ごしていた子どもが突然倒れ、死亡する不幸な事例です。日常の健康観察において何も異常が発見されて

いないにもかかわらず、死に至るものです。心電図検査が義務付けられて以降、突然死が激減しております。しかし、心電図検査は小学1年、中学1年、高校1年と1年生が対象です。突然死の傾向は中学2年から増加し、高校2年がピークと言われております。そこで、

# つつじが岡パークインの 利用停止と今後の活用について

篠木 正明 議員

**質問** つつじが岡パークインの設置目的は何なのか。  
**答** 設置条例の中で「青少年の健全育成とスポーツの振興並びに観光機能の充実と市民福祉の増進を図る」とされています。  
**質問** 利用停止によりどのような影響がでるのか。  
**答** 地域経済への経済効

果が失われることや利用者へのサービス低下につながることも、また、観光への影響も少なからずあると考えています。  
**質問** つつじが岡公園にとても近隣の観光施設がなくなるのは大きなマイナスです。また、地域住民の憩いの場としての役割を考え

館林市としては、中学2年生、3年生も心電図検査の対象として突然死の防止に取り組むことが望ましいと考えてますがいかがですか。  
**答** 中学校期は、心身の発達が著しく、体力も大きく向上するとともに、本格的に部活動が始まり、運動する機会も増えてきます。学校の管理下における心疾患の早期発見及び突然死予防のために、定期健康診断における検査項目の一つ

に心臓検診がありますので、館林市邑楽郡医師会や邑楽館林学校保健会等の意見を参考にして対応を検討していきたくと考えております。  
**質問** 特定健診に認知症検診を  
**質問** 超高齢化社会を迎え、認知症は避けて通れない問題となっております。認知症予防のために特定健診項目に認知症検診を加えるべきではないかと思えます。  
 栃木県矢板市では65歳以上を対象に認知症検診を加えています。無理なくでき

る特定健診の中に認知症検診を加えるのは可能かと思えますが、いかがですか。  
 内部で十分検討を考えたい  
**答** 特定健診の中に認知症の検査を取り入れることですが、矢板市では65歳以上の方、前期高齢者を対象に行っているようです。  
 県内で行っているところはありますが、65歳以上を対象にするかなど、いろいろな方法を検討し、今後、内部で十分に検討してまいりたいと考えております。

れば、住民福祉の向上という点からもマイナスになります。つつじが岡パークインを観光施設として存続させる上での課題は何ですか。  
**答** ボイラーなど入浴設備の交換やリニューアルなどの改修工事が市の負担になりますので、長期的な視野に立った慎重な検討や計画が必要です。また、観光を取り巻く情勢の変化も考慮しなければならぬと考えています。今後、検討委員会を設置して、施設の

利活用を検討していきたくと考えています。  
**質問** 単に黒字になるか、赤字になるかだけでなく、観光や地域経済にとつての効果も考えて判断すべきだと思えます。今後、検討委員会ですべてに結論を出す予定ですか。  
**答** 今後の利活用について、今年の秋までに方針を決めて、存続するということであれば、運営する事業者をどのように見つけるか、課題がありますが、まずは

検討委員会で幅広く意見を聞くことを考えています。  
**質問** 事業者があるかではなく、まず、観光や地域経済への効果も勘案し、つつじが岡パークインが必要かどうかを判断すべきです。パークインの必要性をどのように考えていますか。  
**答** つつじが岡パークインは、つつじが岡公園に隣接している公共の宿としての実績もあり、存続させることにより公園に果たす役割は高く評価しています。